

交流事業通信 第1号

2013年8月27日発行

交流事業主任 上村 眞智子

交流事業主任通信第1号は、フィリピンの首都マニラで開催されました第25回アジア大会での交流の数々、そしてIBC締結を目指して行われたお見合いを中心にご報告致します。

8月1日(木)朝8時、高瀬稔彦理事を始め西日本区から参加される大半のワイズが関西国際空港からマニラに向け出発しました。

到着後、専用バスに乗り込み、市内ショート観光へ出発！フィリピン独立運動の英雄リサル氏を記念し、今も警備の衛兵



が常時守る塔が立つリサルパーク、フィリピン石造建築で最も古いサン・オーガスティン教会、スペイン統治下時代の建物で当時の特権階級の暮らし振りが伺える豪華な作りのカーサ・マニラを訪れました。



ホテル到着後、一休みしてバンブーダンスや民族舞踊を見ながらの食事会会場へ移動。美味しいフィリピン料理を頂き、バンブーダンスに飛び入り参加のワイズやコメントありの楽しい交流の夜が更けて行きました。



8月2日(金)、13時、いよいよ第25回アジア大会の開幕。クリスチャン旗、聖書、キャンドル、アジア旗に続き、6区のリジョン旗(西日本区は高瀬稔彦理事)の堂々とした入場。

Oliver Wu アジア会長の大会開会宣言後、次々とプログラムは進み、表彰の順番となり、西日本区京都部 船木順司直前部長が栄えあるエルマークロウ賞を受賞されました。おめでとうございます！



藤井寛敏元国際会長の司会で国際会長、岡野泰和新アジア会長それぞれの就任式、バッジ交換、就任演説が執り行われ、その後、粛々とプログラムは進み、IPAP(直前アジア地域会長)のタベが Oliver Wu IPAP の歓迎挨拶で幕を開け、BF 代表 4 名(西日本区からは岡山クラブ北川弘子ワイズ)の紹介、お祈りと続き、夕食。フィリピンの民族舞踊や YMCA 女性クラブのダンス等を楽しむ傍らで、再会を喜びあう人達、新しい出会いの誕生を喜び合う人達の和やかな笑顔が会場に溢れていました。



閉会后、交流事業の大切な IBC 締結を目指しての、来年クラブ創立 30 周年を迎える京都キャピタルクラブと創立7ヵ月のマニラ RAHA クラブ(マニラ DOWNTOWN クラブの子クラブ)とのお見合い開始。

RAHA クラブは「レスキュー」をクラブ事業の柱とし、メンバー19名の職業は通信、食糧、海運、金融関係等と多岐に渡り、看護師やエンジニア、学生等80名のボランティアと救急車、消防車を数台有し、互いの仕事を統合すれば災害に立ち向かえると、災害援助等を臨戦態勢で行っているクラブ。キャピタルからは金原弘明会長始め7名、RAHAからは Jonathan Teng 会長





始め 10 名の参加で、石田由美子直前交流事業主任に通訳をお願いして若干緊張感漂う中、自己紹介、クラブ事業



内容の説明、質疑応答が熱心に行われ、途中から高瀬理事も参加され、互いの理解を深める時間をもちました。

お見合いを終えた後、深夜、数台の消防車や救急車を配している彼らの事務所をクラ

ブ双方のメンバーと岡野アジア会長も一緒に訪問。

常に出勤態勢を取っているボランティアの若者が、目を輝かせて自分達の活動を話す姿に強く心を動かされました。

街の安全、人の命を守り、且つ若者の成長をも支援している RAHA クラブの活動は新しいワイズ活動のモデルとなる可能性を秘めている感がありました。( \* 救急車の上部に Y'S MEN CLUB OF RAHA PHILIPPINES の文字とワイズのロゴマークが記されています )



8月3日(土) 午前中は4つの分科会とディスカッションが開催。RAHA クラブの Jonathan Teng 会長が分科会 2 「Community Service Locally or Globally ? 」で発題者の一人としてクラブの取り組みを熱心に話され、参加者との間で活発な質疑応答が行われました。

雨に祟られて大変だった午後のエクスカッションを終え、夜は、岡野アジア会長主催の晚餐会。食事、談笑、写真撮影と緩やかな時が流れ、各地区の出し物タイムへ。高瀬理事はあのゴールドのジャケット、次期アジア大会開催ホストクラブ京都パレスクラブの面々はミドリの法被に身に纏い、東・西日本区ワイズ一緒に童謡メドレー。最後は、高瀬理事の三・七拍子で会場の盛り上げに一役買われました。

会のフィナーレを飾ったのは、岡野アジア会長夫妻のダンス。可愛いお嬢ちゃまのピアノ伴奏で華麗にステップを踏まれ、無事、社交界デビュー? がお出来になりました。

8月4日(日) ユースコンボケーション参加者が主体となって聖日礼拝、報告、前日の分科会報告、第26回アジア大会と第71回国際大会への招致プロモーション、岡野アジア会長の総括と挨拶、高田一彦アジア大会準備委員長閉会宣言で、大会は終了しました。



夜は、ユースコンボケーションに参加した若者と一緒の食事会。彼らは皆一様に、心からの感謝の言葉と共に、又、来年も参加したいとの力強い言葉を口々に述べていました。



8月5日(月) 日本時間午後7時20分過ぎ、無事に、関西国際空港へ到着。

国籍を問わず多くの人々と出会い、語りあい、訪れた国の文化を見知れることは、ワイズにとって交流の真髄。又、ユースにとっては、異文化体験を通して自分が暮らす日本を考え、世界へ眼を向け、一歩踏み出す勇気を得る機会となり、自らの成長を感じ取れる場となります。

YEEP,STEP への足がかり、そして IBC 締結のチャンスを得る事が出来る場であるアジア大会や国際大会へ、ワイズの方々、メネット、そしてコメントの皆様方、奮って参加致しましょう!